

今日はクリスマスの集会という事で、私もクリスマスカラーで決めてみようかなと。

ちょっと薄紫のカッターシャツにグリーンネクタイ。

ランチの後に賛美をさせていただきたいと思っっているのですが、ギター演奏だから衣装らしいものがいんじゃないかと、朝、ショッキングピンクのど派手なピンクシャツに、ど派手な緑のネクタイを締めて鏡の前に立ったら、漫才師みたいに見えたんですね。

家内の反対もあって、ちょっと抑え気味に、こういう形になりました。

クリスマスシーズンになると、やっぱり華やいでいるというか、美味しい物もきらびやかな感じがします。日本は政教分離で、宗教に由来する日を国家の祝日に定める事は出来ませんが、実はクリスマスは、世界約200ある国の、世界で一番多くの国々が、国家の正式な祝日・休日に指定している日なのです。だから、国民あげて、その事を考えようとなっています。

ところで、祝日はお祝いする日なので、何かを・誰かを祝うのです。日本も祝日ではないにせよ、クリスマスは祝われていますが、誰を・何を祝うのか？これが、案外忘れられている事が多いんじゃないでしょうか？結婚式での主人公は、やっぱり花婿と花嫁。披露宴でも主人公は新郎・新婦。花婿・花嫁がいない結婚式や、新郎・新婦のない披露宴は、単なる飲み会。

クリスマスの主人公はイエス・キリストです。でも、日本ではイエス・キリストがいないクリスマスが多いんじゃないか？「イエス・キリストと言われてもよく分からない。私とは関係ない」と思っている方が多いので、クリスマスの意味もピンと来ないんじゃないでしょうか？そこで、今日はクリスマスの本当の意味について、一緒に考えてみたいと思います。

マタイ 1:18-21 イエス・キリストの誕生は次のようであった。

母マリアはヨセフと婚約していたが、二人がまだ一緒にならないうちに、聖霊によって身ごもっていることが分かった。夫のヨセフは正しい人で、マリアをさらし者にしなかつたので、ひそかに離縁しようと思った。彼がこのことを思い巡らしていたところ、見よ、主の使いが夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフよ、恐れずにマリアをあなたの妻として迎えなさい。その胎に宿っている子は聖霊によるのです。マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方がご自分の民をその罪から救いになるのです。」

イエスを名字、キリストを名前だと勘違いしている方が多いのですが、そうではないんです。豊臣秀吉は豊臣が名字で、秀吉が名前。でも、太閤秀吉と言った場合、秀吉は名前ですが太閤は称号です。天皇や将軍がまだ幼過ぎて政治を司る事が出来ない場合、代理で政治をする、その代理人が摂政。摂政が引退した後、自分の子供が摂政の地位に就く場合、太閤というポジションになります。太閤は称号。

イエス・キリストのイエスは名前ですが、キリストは称号なんです。キリストの意味は「救い主」、イエスの意味は「主は救う」。この世界をお造りになった全ての作者・全宇宙の第一原因者・あなたの魂の親・あなたの作者である目に見えない大きな大きな神様がおられる。その神は救い主です。「神が救う」がイエスの意味。だから、イエス・キリストは「『神が救う』という名前の救い主」という事。

とにかく「救う」という事が強調されているのです。

世界を造った神が人となって、処女マリアの体を借りて、赤ちゃんとしてこの世界に生まれてくださった。それがイエス・キリストです。これがなぜ救いなのかを、今日は2つ紹介したいと思います。「神は上から私たちを眺めているのではなく、人類歴史の中に人として介入し、誕生してくださった」と、ここで語っているのです。

昔、奈良にドリームランドという遊園地がありました。今は昔の物語。大阪にユニバーサル・スタジオ・ジャパンができて以来、西日本の遊園地はバタバタと倒産し、あやめ池・宝塚ファミリーランド・阪神パーク、色々あったけど、みんな潰れてしまいました。アトラクションのすごさで、競争力を失った遊園地は全部ダメになって行った。

まだそれがなかった時代、奈良ドリームランドに子供と行った事がありました。

そこに絶叫マシンがあって、それはジェットコースター。そんなに高く行かないし、そんなに速くないし、そんなに長くない。大した事ない。これでもジェット？というノロノロしたジェットコースター。だけど、ある一点で、大変人気があったのです。これを支えている支柱の7割が木造。普通は鉄の柱でレールを支えるのが、奈良ドリームランドに於きましては木造。なので、ゆっくり上がって行く時、ギシギシときしむ音が聞こえる。上まで行って下りようとした時、ガグッ！ギーッ！ガタッ！つまり、スピードを楽しむ絶叫マシンではなく、バラバラに崩壊するかも感、滑り落ちている間に、支えている柱が外れるのではないか、という恐怖感が怖い絶叫マシン。これはある意味、本当に怖いと思いますね。

これを噂に聞いていたので、「乗りたいなあ。乗って話のネタにしたいなあ。」だけど、ええ歳した大人が1人でジェットコースターに乗るのは、わたくしにもプライドがあったので、次男に「お父さんと一緒に乗れよ」と。長男は怖がりなので、まず乗らない。次男はそういうのは怖くないのに、ギシギシとか「危ないぞ」とか聞いて「お父さん、嫌だよ」とか言っていたんですが、「親父の顔立てて、ちょっと乗ってくれよ」という事で、説得して乗ったんです。

恐ろしかった…。本当に「こういう死に方、嫌だよね」という感じ。しかもシートベルトに切れ目が入っている。わざとレトロ感を出して、「事故起こすよ」みたいな感じの演出。怖いじゃないですか。下りてくる時、普通は両手を上げているけど、乗っている人みんな、隣の人を体を押さえている。「飛び出すなよ」みたいな。

面白いというか、恐ろしい思い出なんですけど、終わった後、次男が「お父さん、もう1回乗ろうよ。」「あんなに嫌がっていたじゃない。」「いや、もう1回乗ろうよ。」「怖くないの？」「だって、お父さんがずっと押さえていてくれたじゃないか。」

つまり、そばに誰がいるかという事が、一番重要な問題だったんですね。

確かに恐ろしい乗り物だったけど、普段中々話が出来ない（私が普段家にいなかったの）お父さんと狭い箱みたいな所に入って、ピツタリくつつきながら、お喋りしながら、恐怖を共有しながら、「楽しいなあ。お父さん、もう1回乗ろうよ！」そう誘ってくれたのを、今でもよく覚えています。

長く生きていくと、まるで絶叫マシンに乗っているような心境の、嫌な事・辛い事・しんどい事・いつになったら終わるのか、というような事が降りかかって来ます。しばしば。

その時、たった1人でその辛い事をこらえるのか？

すぐそばに寄り添って、私が飛び出さないように、壊れないように、潰れないように、そっと手を置いて

いてくれる頼もしい同士・お父さんのような方がいたら、もう少し人生に立ち向かっていく力が湧いて来るんじゃないでしょうか。

1) **マタイ 1:22-23** このすべての出来事は、主が預言者を通して語られたことが成就するためであった。「見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」それは、訳すと「神が私たちとともにおられる」という意味である。

インマヌエル、英語では「エマヌエル」と発音されますね。インマは「共におられる」、又は「私たち」、エルは「神」。**インマヌエル**とは「神が私たちとともにおられる」

でも、その神は目に見えないので、人生の中でしばしば「神は私の事なんか忘れていてのではないかな？見捨てていてのではないかな？」という心境になる時があります。「神は紛れもなく私たちと共におられる、寄り添う方である」という事を肉眼で確認できるように、神は人となって、この世界に生まれて来てくださいました。

なぜイエス・キリストが来てくださったのか？神があなたと連帯するためです。私たちが一匹狼で人生の困難に立ち向って行くのではなく、どんな事があっても、全知全能の神がすぐそばに寄り添って、「わたしがいるから。」「わたしが支えるから。」「わたしが道を示すから。」いつも私たちを覚えて、愛しておられるという事を、どんなに疑り深い人にも確信させるために、人類歴史の中に1度生まれてくださいました。あなたと連帯するために来られた方が、イエス・キリストという神なのです。

2) **マタイ 1:21** **マリアは男の子を産みます。その名をイエス（主は救う・神は救う）とつけなさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです。**キリストは、私たちが罪から救うために来てくださったんですよ。

今年、すごく劇的な出会いが何回かありました。10月、高校時代の恩師がこのような集会に来てくださったんです。40年振りの再会。その方は体育教師で怖かった。これがまたホンマに。楽屋に「高原君」と入って来て、こんなに小さかったかなと。不思議な感覚でした。

私が小学校2年生の時、とても親しい友人にA君がいました。A君は小学校2年生の時転校して行ったのですが、高校入学の時、彼がいるんです。7年振りの再会。同じクラスにはならなかったのですが、そこそ親しい友情が復活しました。彼はボディビル部。若い男の子は、やたらと筋肉付けるのが嬉しい。

ある時、友人と一緒に下校して駅に向かって歩いていたら、あの体育の先生が、後ろから恐ろしい形相で全速力で走って来るんです。タ・タ・タ・タとその足音で思わず振り返って、「あ、先生！」と言ったら完全無視。あつと言う間に追い抜いてサッと走り去った。「何をあんなに急いでいるんだろうね。」次の日、学校に行ったら分かりました。A君がバイク事故で即死してたんです。しかも駅の向こう側で。

うちの高校は、もちろん単車通学は禁止です。だけど僕らの世代は、単車に乗るとするのは男子としてすごくステータスがあった。彼は高2になって免許が取れると、何人かの友人と、内緒で単車に乗って登校してたんです。免許取り立てで、運転技能もまだ良くないのに無謀な運転をし、溝の中に単車が挟まって電柱に激突。「ほぼ即死だった」と学校で聞いて、びっくりしました。そして、友人たちと一緒にお葬式に行きました。そしたらそこに、友人のB君が単車に乗って来たんで

すよ。バイクの事故で亡くなった子供のお葬式に、中型バイクに乗って来たんです。最後にお母さんが出て来られた。「あんた、まだ目覚めへんのか？若い時にそんな冒険して、何かの勲章になるとしてんの？命は1つしかないんだよ。どうしてそんなに粗末にするの?!大人になるまで単車に乗るの、やめとき！」彼はその剣幕に押されて、「お母さん、ごめんなさい」と言いました。その光景を忘れる事が出来ません。

それからしばらくして、文化祭がありました。私たちのクラスは模擬店。クラスを喫茶店みたいにして、コーヒー・紅茶・ソーダなどを出すのです。教室のままだったら雰囲気が出ないので、煉瓦造りの装いの壁紙に変えようと、茶色のペンキでレンガを描いて教室中に貼るけど、途中でペンキがなくなって、買い出しに行かないといけない。

田舎の方にあった高校で、駅まで1.5キロあるんですよ。駅前に梅酒工場が1件建っているだけで、ショッピングセンターとなくて、2つ向こうの駅まで行かないとダメ。日も暮れるし、どうしたもんか？

その時、B君が「俺、今日単車に乗って来たし」と言ったんです。「ナニ考えてんねん！」と思ったけど、「困ってんのやろ。後ろ、乗れよ。単車やったら、行ってすぐやぞ。」「おまえ、乗って来たらアカンやろ。」「困ってんのやろ。」「うん。」どうかなと思いつつ、私が後ろに乗ったんですよ。そして駅まで行って、茶色のペンキを買って、しばらく行った所でエンスト。ガソリンが入ってなかった。中型の単車を押しながら、本当は急いでいるはずなのにノロノロと。

「おまえとおったら、ロクな事ないわ！」とか言いながら押していたのですが、その時Bが「ヤバイ！」A君のお母さんが前から歩いて来たんです。一本道です。逃げられへん。逃げよと思ってUターンしようとしても重い。どんどんお母さんが近づいて、私たちはうつむくしかなかった。すれ違いざまに何か言われるかなと思ったけど、ひと言も言わず、そのまますれ違って去って行きました。その時、ほんまに悪い事したと思いました。お母さんが何も仰らなかつた事が、却って心に刺さって。「なんて酷い事をしてしまったのか…。あのお母さんを二重に苦しめる事をしてしまった…。取り返しがつかない事を…。」

それを、誰かに言わずにはおれない。誰かに打ち明けて話をしたら、荷が軽くなると言います。私をよく分かってくれる友人たちに言ったら、みんな「くよくよするなよ。」「そんな事くらいでウジウジするな。」「ラーメン食いに行こ！」「新しい映画封切りになったから、一緒に見に行こう。映画見たら、そんな気持ちなんて吹っ飛ぶよ。」「君がファンのロックグループのライブ、見に行こう！」私は本当に落ち込んでいたので、友人たちがみんな励まそう・慰めよう・元気づけようと、色んな親切をしてくれました。

でも、その時つくづく思ったのは、今私が必要としているのは、心の底から欲しいのは、励ましじゃない。今一番欲しいと思っていたのは「赦し」だったんです。「ひどい事やっちゃった！」それを「忘れろ。」「世の中には他に楽しい事がたくさんあるから忘れてしまえ」と。忘れてしまえる人もいるかもしれませんが、でも、あのお母さんの事を考えたら、心の中に突き刺さっているものが疼いて、どうにもたまらない。

その時私が求めたのは、権威ある人が「しっかりしなさい。あなたの罪は赦されている」と言ってくれたらどんなにいいだろう。私にとって権威ある人はA君のお母さんです。A君のお母さんが「もういいよ」と言ってくれたら、どんなにいいだろう。彼女以外の方がどんなに私に親切にしてくれても、それによっては、この棘は抜けませんでした。

それで、Bを誘って謝りに行こうと。Bは「俺は行かん。」なぜかという「守れない約束はしない。絶対に単車を手放せへん。」なので、1人で行く事になったんです。

彼が「お前、俺を悪者にして謝って来たらええから」って、そんな事言うんですよ。

「ほんまにそう言うたるか」と思ったけど、さすがにそれは出来ない。

日を改めて行こうとするんですが、家の前まで行って、お母さんが玄関に出て来る気配を感じると、すっ飛んで逃げて来ました。謝りに行ったのに、本人と向き合うチャンスが来たら「怖い、怖い」と逃げてしまった。なぜ逃げたかという、赦してもらえるとという確証がなかったからです。

却って火に油になるんじゃないかと思うと、足がすくんでどうにも出来なかった。

何回も行ったり来たりを繰り返して、最終的に謝りました。そしたら、そっと私のところに来て、ハグしてくれたんです。まるで亡き息子をハグするように。その時、大人になるまで、絶対に単車の免許は取るまいと思いました。「もういいよ」と赦してもらった時に、初めて、棘が抜けたように思ったんですね。

人生の中で、「それを思い出したら、疼いてたまらない」というような罪の経験がありませんか？

聖書は「全ての人、神様の前に罪人ですよ」と語っています。

でもキリストは、その罪を責め立てるために来られたのではなく、赦すために来られたのです。

私たちの罪の償いを私たちにさせるためではなく、私たちに代わって、キリストが罪の償いをするために、この世界に来てくださったのです。

「あなたの全ての罪の償いは、十字架にかかったイエス・キリストが、代わりに全部引き受けてくださいました」と聖書は語っています。

イエス・キリストの十字架と3日目の復活を通して、世界中に福音が広がっているという事ですね。

プレゼント、贈った人が一番嬉しいのは、喜んで受け取ってもらえるという事だと思います。

先日、私の講演会にアメリカのシアトルから来られたのに、その日は変更で講演会がなかったんです。

折角日本まで来られたのに。シアトルですよ、皆さん。シアトルコーヒーではないんですよ。

これはお気の毒だと思って、講演の代わりにお好み焼きをご馳走しようと。家内と一緒に「天満橋スペシャル焼き」というのをね。「こんな食べ物があるのね！」「あるですよ！」

いっぱい写真を撮りました。「こんな熱い所で焼くのね。」「熱くないと焼けません。」とか言って。

親子3人がはしゃいで食べてくださっている様子を見て「嬉しいなあ。」

受け取ってくださったので、何よりも嬉しかったのです。

神は私たちにイエス・キリストという最高のクリスマスプレゼントを提供してくださいました。

その神様に対する最大のお礼返しは、この方を救い主として受け取る事・神が提示しているプレゼントを「ありがとうございます」と受け取る事だと思います。

是非、心の中にイエス・キリストを信じてください。それが「本当のクリスマス」の実現になると思います。皆様にとって素晴らしいクリスマスになる事を祈りながら、お話を終えさせていただきます。

~~~~~

\* 動画は YouTube で「HCA 東住吉キリスト集会」

\* ラジオ番組「聖書と福音」(15分) も是非どうぞ。YouTube もあります。

\* YouTube 「ごうちゃんねる」(約10分) もぜひ見てください。

動画筆記 : Rumi